令和4年度　こども発達支援センター青空
ご家族向け研修

こどもの行動の理解と対応
～行動的課題の理解と対応について

こども発達支援センター青空

困っているのは誰ですか？

困っているのは　私？

行動から考える

子どもの行動を理解する

行動の理解

- ＡＢＣ分析の考え方

先行状況 Antecedent	→	行動 Behavior	→	結果 Consequence

- 「先行の状況」を変えることで対処する
- 「結果」を変えることで減らしていく

行動には目的（機能）がある

- 行動の結果として何を得たのか？
  - ・注目を得る
  - ・物や活動を得る
  - ・感覚のフィードバックを得る
  - ・何かを回避する
  - ・必要な援助を得る

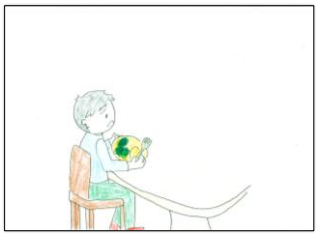
不適切な行動が減らない要因

- 要因の未解決
- 場当たり的な対応　　→強化、助長される場合が多い
- 適切な行動が教えられていない
- 本人のせいにされている

行動にはメッセージがある

- お母さん、こっち向いて！
- もう、飽きちゃったよ・・・
- 休憩させてほしい
- 手伝って！教えて！
- これでいいの？
- もう、疲れた・・・

こどもが食事をしている場面



考えてみよう！

行動のきっかけ	どんな行動	結果（対応）
ブロッコリーだけ残る	お皿をひっくり返す	ブロッコリーを食べなくてもよくなる

練習問題

- 買い物にいったとき、ＤＶＤを手にとり買ってほしいとアピールしてきました。
- 先日買ったばかりなので、「買わないよ」と言いましたが、手放さないため、棚に戻すと泣いてバタバタし始めました。
- あれこれ言ってなだめようとしましたが、聞き入れず、いつまでも泣きやまないので、ＤＶＤを買って帰りました。

考えてみよう！

行動のきっかけ	どんな行動	結果（対応）
DVDを買って欲しいと言ったが、買わないよと言って棚に戻した	泣いてバタバタする 泣き止まない	DVDを買ってもらった

夫が食器洗いをしてくれた

あなたは、なんと言いますか？

こんな風に言ったら、どうですか？

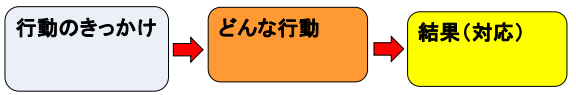
A，「何か、やましいことでもあるの？」

B，「どうせなら、きれいに洗ってほしいなぁ」

C，「へえ～、やればできるのね」

ありがとう♥

行動は学習の結果



・良い行動も困った行動も、結果（対応）によって身についていく（強化）

困った行動

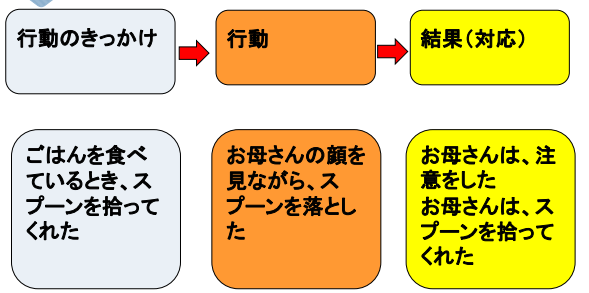
- 困った行動もこどもが学習して身につけたもの
- 行動が起こっても、そのあとで強化となることが起きないようにする
- 行動が起こっても強化されないとその行動が弱まる

事例

◆Ａちゃんの行動

ごはんの途中で、お母さんの顔を見ながらスプーンを床に落としました。お母さんは、Ａちゃんに注意をして、新しいスプーンを渡しますが、Ａちゃんはまた、スプーンを落とします。

考えてみよう！



この行動から考えられることは？

○スプーンを落とすことで得たことは？

注目してもらえた

表現の機能

①要求　～がほしい、～をしてほしい、～してもいい？

②注意喚起　自分に関心、注意を向けさせる

③拒否　物や活動、人の要求を拒否する

④説明　自分や人のこと、物の特徴や状態について指摘する

⑤情報提供　相手の知らない情報を知らせる、質問に答える

⑥情報請求　自分が知りたい、教えて欲しいことを意思表示する

⑦感情や共感の表現　感情や体調などを表現する、　挨拶をする

こどもの行動の見方

○肯定的な注目

○ほめる、喜ぶ、こどもに感謝する、笑顔を見せるなど

○こどもの行動を受け入れて肯定するときに行う

○否定的な注目

○叱る、怒る、批判する、問いただす

○こどもを注意するときに行う

○否定的な表現だが、「注目」として機能する

注目の力は偉大！

- 「肯定的な注目」「否定的な注目」どちらも同じ“注目”
- 肯定的な注目は、こどもの自尊感情を育てることにつながる
- 否定的な注目は、マイナス思考になったり、誤学習になる可能性がある

「ほめる」とはよい注目

- 相手の良い行動に気づいていることを知らせる意味がある
- 相手の行動を強化する
- どの行動がよいのか、相手に分かるようにほめる

好ましい行動に注目

- 「怒る」は、否定的な注目
- こどものトラブルに「怒る」で対応すると、悪循環に陥る危険性がある
- こどもが現在できていて、続けて欲しい、増やしたいと思う行動に注目

肯定的な表現で注目するとしたら？

こどもの行動がよくなるためのポイント

①こどもの行動をよく観察する

②できるところから１段ずつステップを踏んでいく

③こどもの特徴に合わせて関わる

④高望みしない

ほめるタイミングも大切

①ほめられたことが、こどもに分かるように

②やり遂げるまで待たない（２５%ルール）

③すぐにほめる

④こどもが好きなほめ方でほめる

行動への注目

●好ましい行動をしている時に注目を向けず、
好ましくない行動をしている時に
「否定的な注目」を**即座**に
与えていませんか？

注目が誤学習のきっかけになる

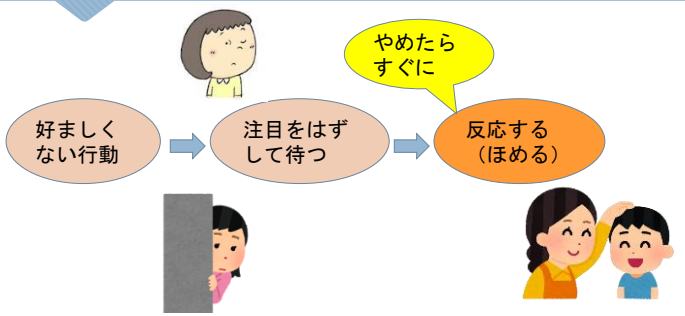
●止めさせたいと思って反応してしまうと、
注目を与えてしまうことになり、逆に強化
してしまいます

穏やかに楽しく…

●好ましい行動をしている時に、**肯定的な注目を与え続ける**ことで好ましい行動を増やす

●好ましくない行動からは、**注目を取り去る**ことで不適切な行動を減らす

注目を取る（反応のタイミングを待つ）



注目を取る（反応のタイミングを待つ）

- 効果的にするためには、別の行動になったらすぐに反応する
- やめたらすぐ「ほめる」ことが大切

※頭で分かっていても、ほめるのを忘れたり、タイミングがズレてしまうと逆効果

何に反応しないのか、どうほめるのかを明確にしておくと、スムーズに対応できる

行動には意味がある

- 何に困っているかという視点で考える
- 行動をやめさせることにこだわらない

こどもを理解する

ー思考の違いを知るー

ゲームはいつできる？

お勉強したら
３０分だけ
ゲームしてもいいよ
お勉強しなかったら
ゲームは無し

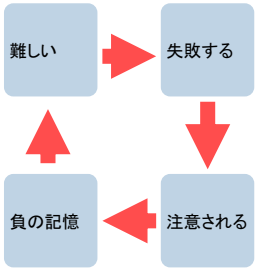
お勉強したら　30分だけ　**ゲームしていいよ**

勉強しなかったら　**ゲームは無し**

想像の中で比較するのは難しい

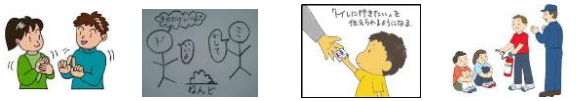
分かる方法で伝える

- こどもに分かってもらえる伝え方を考える
- 「わかっているだろう」を正しく評価する
- できるだけ失敗させないことが理解を広げる
- 持っている力を発揮できるように対応する



伝えやすい方法で聞く

- こどもが、伝えやすい方法を使うことで、話して楽しかった、また話したいという気持ちを持ってもらうことが大切



伝えやすい方法で聞く

- コミック会話―本人が言ったことを絵や文字にすることで、自分の考えや言葉を整理できる
- PECS－誤解なく相手に伝えることができる（自発を教える）
- サイン、実物、モデル実施など

“困っている”を伝えられますか？

―笑顔の後ろに隠されているこどもの思い―

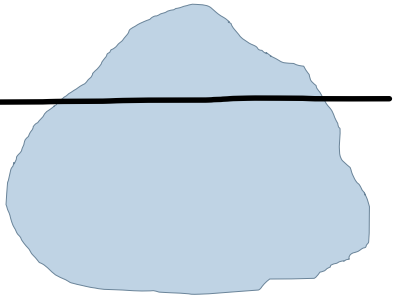
特性から行動を考える

行動の奥にある、困りごとに気づく

氷山モデルから考える

表面上の問題

水面下の問題



ワーク

事例（幼稚園での様子）

- Cちゃん（5歳）年長
- ことばは話せますが自分から話すことは少ないです。あまり人と関わらず、一人で過ごすことが多いです。
- 教室では、支援の先生がついています。
- 以前は、スケジュールがありましたが、本人が見ないので、現在は使っていません。日常は、みんなの後をついて行動しています。
- 幼稚園の先生に様子を尋ねると、「何も問題ないですよ」と言われます。

事例（自宅での様子）

- 年長になった頃から、帰り道に不機嫌になるようになりました。最初は、そのうち収まるかと思っていたが、エスカレートし家で爆発するようになりました。
- 好きな水が流れる水路を見たくて、なかなか家に入ろうとしなかったり、雨の後、突然、家から飛び出したりします。
- 最近では、お家でお母さんやお姉ちゃんを叩く行動が増えてきました。夜中に目を覚まし、泣きながら叩くこともあり、家族も疲れています。

氷山モデルから考えよう

1、行動上の問題「困った行動」「気になる行動」を
リストアップする

2、行動の背景を考える

3、その行動の対応を考える

ワークシート　（困った行動・気になる行動）

まず、最初に自分で①を書いてください

※　思いつくだけ書き出してください
事例の文の中から、気になること、困った
行動と思うものを書いてください

ワークシート
（その背景は？何故？もしかして？）

② その行動の背景を考える
- ・いつから始まったか？
- ・何かきっかけは？
- ・どういう場面で、どういう時によく起こるか
- ・その行動に対するこれまでの対応の効果は？
- ・行動の理由、原因を障がい特性から検討すると？

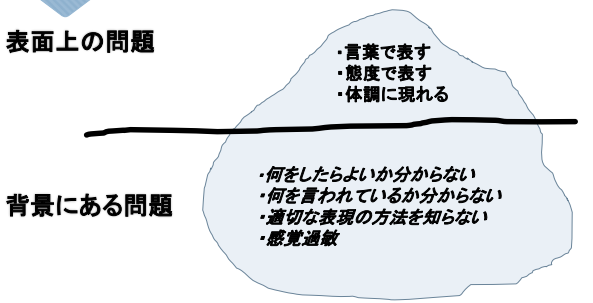
ワークシート（対応）

③ その行動への対応を考える（優先度の高い行動をあげる）
- ・その行動に対応することで、本人の生活がどのように改善させるか？
- ・動機になること、興味・関心のもてることは？

ワーク

- お疲れ様でした。

こどものサインを見つける

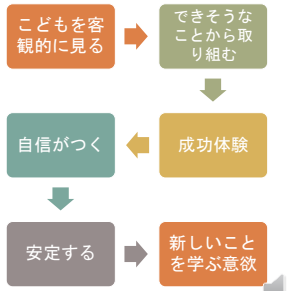


困っているサインは、分かりにくい

☆表情に出にくく、うまく言葉で説明できない。
　そのため、ストレスを溜めやすい
☆傷つきやすく、トラウマになりやすい
☆その場で出さずに遅れて表出するなど分かりにくい

何を大切にするのか

- こどもは必ず成長する
- 今、必要なことは意味のある世界へ導くこと
- 成功体験を積む
- 言葉のみにこだわっていると、
  大事なものを見落としてしまう



環境を整える

こどもが安心できる環境を整える

〇分かりやすくする

〇見通しが持てるようにする

〇嫌がることは無理強いしない

視覚提示が必要

“分かることが安心への扉”

–安心が保証されなければ学ぶことは出来ない

こどもへの支援

- ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）
- 余暇支援
- 感情のコントロール

ソーシャルスキルトレーニング

- こどもが、分かりやすい方法で、世の中のルールや、ふるまい方を教える
- 例えば・・・

  ソーシャルストーリー

  コミック会話

  コミュニケーションの方法

余暇支援も大切

- 余暇が『楽しい』ことで、『楽しく』過ごせる時間が増える
- 『楽しい』余暇が豊かなことで、問題となる時間が少なくなる
- 『楽しい』余暇は、将来にも役立つスキルとなる

余暇の1つ「休息」「休憩」

「休憩しましょう」と言われても、休憩の方法が分からない人がいる

➡ 具体的に何をするか伝える

感情に気づくことが遅い事があり、そのため「休息が必要」な事に気づきにくい人もいる

➡ 感情には段階があることを教える

感情コントロール

レベル	ひょうじょう	どんなとき	なにを してる？
5		がまんできない！	・「ダメ」と いわれる。
4		がまんしている	・おともだちに おもちゃを とられた。 ・くすりを のむ。
3		ちょっとイヤ	・ピーマンを たべる。 ・バナナを たべる。
2		ふつう	・おえかきを する。
1		だいじょうぶ！	・ほいくえん、おいしゃさん、コナミ、サンに いく。 ・ニンテンドウウィーを する。 ・ほんを よむ。 ・おてつだいを する。 ・チョコレートを たべる。

リラックスの方法

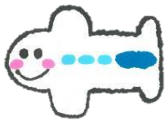
本人ができるリラックスの方法を見つけておくことも必要

（深呼吸、力を抜くなど）

“行動には意味がある”

“行動は学習の成果”

大切なことは

- こどもの特性や個々の学習スタイルの違いを理解して考える
- 環境を整える
- こどもが分かる方法で教える

ご清聴ありがとうございました